バリ島家族旅行

右城　猛

■まえがき

子供達には中学校受験と大学受験があった。勉強のことを忘れてのんびりできるのは，次女の怜佳が大学に入学した 2002 年になってからであった。2005 年になると，今度は長女の和恵が大学を卒業して会社に就職することになる。家族揃って旅行ができる機会は，2002 年から 2005 年の 3 年間しかない。

2002 年(平成 14)の 8 月，AVA「バリ島 5 日間」JAL パックを利用して，わが家にとっては初めてとなる海外家族旅行をしてきた。

行き先は，人気が高く比較的費用が安いバリ島。関西空港からバリ島のデンパサール国際空港までの所要時間は 6 時間 50 分。時差は 1 時間である。

バリ島の位置

バリ島の観光地

旅行の日程(2002 年 8 月)

21(水)	関西空港発 17:40(JAL715) デンパサール国際空港着 23:30(所要時間 6:50) ヌサ・ドゥア泊
22 (木)	ウブド観光 ホテルでプール，ビリヤード ヌサ・ドゥア泊
23 (金)	マリンスポーツ ヌサ・ドゥア　フェスティバル　パレード ケチャックダンス ヌサ・ドゥア泊
24 (土)	デンパサール ジンバラン 夕方ホテルを出発してデンパサール国際空港へ
25 (日)	デンパサール国際空港発 0:50(JAL716) 関西空港着 8:35 分

ヌサ・ドゥアとブノア地域

■滞在したホテル

空港には現地添乗員が迎えに来ており，ワゴン車でヌサ・ドゥアの高級リゾートホテル「シェラトン・ヌサ・インダ」に送ってくれた。

ヌサ・ドゥアは，インドネシア政府がバリ島の観光を活性化するために特別に造られたリゾートエリアである。世界的に有名な高級ホテルが立ち並び，ビーチはプライベート・ビーチとして仕切られている。バリの一般市民の生活から完全に切り離されたエリアとなっている。

滞在したシェラトン・ヌサ・インダ

ホテル内の泉とカエルの像

カエルは水と関連が深いことから，雨をもたらす神様の使いとされている。神様からの雨の恵みに対する御礼として，街のいたるところでカエルの置物が見られた。

竹飾りペンジョール

ペンジョールは天と地をつなぐ龍を表しており，いろいろな祭りや祝い事の日に掲げられる。弓状に先をしならせた長い竹竿と椰子の葉の飾りは，日本の七夕に似ている。

ホテルの庭園に祀られたバリ・ヒンドゥーの神様

子供達の部屋は壁を隔てた隣

ホテルでの夕食

ホテル内のプール

ママ得意の背泳ぎ

二日目の夜，ホテル内のプールで泳いだり，ビリヤードをしたりして楽しむ。

三日目の夜は，ホテル内のガーデンで，ケチャックダンスを見ながら食事。ケチャックダンスはバリが世界に誇る舞踊芸術。半裸の男性達のケチャ・ケチャと言うコーラスに合わせた踊り。

■ウブド観光

ウブドはバリ舞踊，バリ絵画などで有名な芸術の村。

最初の観光地はバリ・バードパーク。ヌサ・ドゥアから北へ約１時間のところにある。2 ヘクタールの植物の生い茂る広大な敷地内に 250 種類，約 1,000 羽の鳥たちの住むテーマパークである。インドネシア国内の鳥はもちろん，アフリカ，南アメリカの普段なかなか見ることのできない鳥たちがいる。

バリ・バードパーク

バリ・バードパーク

バードパークの後は，バリ絵画工房に案内された。工房では数人の若い絵師たちが，分担作業で絵を描いていた。

見学した絵画専門店で，弁財天を描いた絵画を購入する。弁財天とは，音楽・弁才・財福などをつかさどる女神。学問・芸術の守護神としてインドで最も尊崇された女神。天然木チークを使用した木彫りの額縁に入っている。

この絵画の技法はバトゥアン・スタイル。バリの伝統的技法であるカマサン・スタイルと近代ヨーロッパの絵画技法が融合してできた技法で，墨絵のような細密な絵画である。

モンキー・フォレストの入り口で使い捨てカメラを購入する。

モンキー・フォレストは，自然保護区になっている森があり，200 匹以上の猿が暮らしている。

モンキー・フォレスト(猿の森)

猿の森の奥にある死者の寺ダルム・アグン・パダントゥガル寺院。入り口には左右対称にできた「割れ門」(チャンディ・ブンタル)がある。悪霊や邪な者が入ろうとすると，左右の門が閉じ進入できなくなるといわれている。

バリの正装は腰に布(サロン)を巻き，布の紐(スレンダン)で結ぶこと。正装でないと寺院に入ることはできない。入り口で貸してくれる緑のサロンと黄色のスレンダンを腰に巻いて参拝する。

ダラム・アグン・パダントゥガル寺院

ウブド市場があるジャラン・モンキーフォレスト。ジャランとはぶらぶら歩く通りの意味。

ショッピングで立ち寄った土産物店の主人

■マリンスポーツ

パラセイリング

ブノアのビーチでマリンスポーツを体験する。

最初はパラセイリング。パラシュートをボートでひっぱってもらうと, 約 50m の高さまで凧のように舞い上がる。鳥になった気分を約 10 分間味わった。

パラセイリングの準備完了

臆病者の和恵さんも大空へ

着地してホッとした顔に

怜佳さんは余裕で大空へ

天空へ舞い上がってしまった

スキューバダイビング

スキューバダイビングをするときに身に付ける機材には,「スクーバ・タンク」(空気ボンベ), タンクと口とをつなぐ「レギュレーター」,「ダイビングスーツ」,「水中マスク」,「フィン」(足ひれ),「ウェイト」(錘) がある。

安全に潜水するには機材を使いこなさなければならないので, かなりの訓練を積む必要がある

と思っていた。しかしここでは，レギュレーターの使い方やトラブルが発生したときに SOS を送る合図の仕方などの基本的な技術を事前に少し教えただけで，ボートで沖に連れて行かれた。

ボートで沖へ

有無を言わさずにインストラクターの誘導で，先ずは私が海底に連れて行かれた。そこで，妻を連れてくるまで海底の岩にしがみついて待っているようにと指示された。

水中マスクの中に海水が入り込むし，呼吸が上手くできなくて苦しくてたまらないので，事前に教えてもらった SOS のサインを出したのであるが，インストラクターはそれを無視して妻を連れに行ってしまった。

ウェイトを付けてはいるが，必死で岩にしがみついていなければ浮力で腰が浮き上がる。苦しくて死ぬかと思ったが，少し慣れてくると，事前に教えられたように深くゆっくりとした呼吸ができるようになった。スキューバダイビングでは，パニックになるのが最も危険なようである。

水上オートバイ

２人乗りの水上オートバイで水面を走り回ると快適。最初はインストラクターが運転するが，少し沖に出ると運転をさせてくれた。速度を出すと，バイクが水面に衝突する際の衝撃が腰に響く。

水上オートバイで「亀の島」に連れて行かれた。亀やコウモリ，ニシキヘビなどがおり，さわったり抱いたり動物に触れることができる。

水上オートバイで「亀の島」へ上陸

怜佳はニシキヘビも平気

「亀の島」と言われるだけあり亀が一杯

クチバシが大きいこの鳥は九官鳥だろうか？

和恵さんは，蛇が大の苦手。怖ーイ，イヤー。

最後はバナナボート

バナナボートは楽しい

■ヌサ・ドゥア　フェスティバル

マリンスポーツからホテルに帰ると，ホテル近くで民族衣装に身を包んだパレードに出会った。偶然にも今日が「ヌサ・ドゥア・フェスティバル」の初日で，パレードが行われていた。

バリはバイクが多い。親子５人が一台のバイクに相乗りしてパレードを見に来ている家族も見かけた。

疲れた。足が痛くて歩けない。

■デンバサール

バリ州の州都であるデンパサールは，バリ島で唯一の都会。デンは北，パサールは市場の意味。

街の中心部には，ププタン広場がある。街の南部には大型デパートもあり，南東部は官庁街となっている。

デンバサールの観光地

ジャガッ・ナタ寺院

最初に観光したのがデンパサールの中心にあるジャガッ・ナタ寺院。バリ・ヒンドゥー教の最高神サンヒャン・ウィディ・ワサを祀っている。

入り口で腰布(サロン)と布紐(スレンダン)を有料で貸し出している。入場料以外にサロンとスレンダンの貸出料を取ることから，入場料をぼったくりされていると勘違いして，少しトラブル。

入り口でサロンとスレンダンを借りる

バリの木琴

ジャガッ・ナタ寺院の巨大な塔

この寺院ではサロンとスレンダン貸し出すところが 2 箇所あった。これがぼったくりと勘違いした要因の一つ。

公衆電話

ププタン広場

デンパサールの中心にある広場。ププタンとは死への戦い(玉砕)の意味。1906 年にオランダ軍との最後の抗戦に参加し命を落としたバドゥン王国の王族や義勇兵の命をねぎらうモニュメント。

寺院の前で買った果物をこの公園の木陰に座って食べる。

地元の中学生らしき子供達も公園の木陰に座って昼食の弁当を食べていた。

木陰で休憩。後方にジャガッ・ナタ寺院が見える。

割れ門

義勇兵の命をねぎらうモニュメント

デパート

デンバサールでは，若者に人気の高いと言われているラマ・ヤナデパートと，デンバサール一の大きさを誇るマタハリ・デパートに行く。

デンパサール市内にあるマタハリは，日本で言うなら高島屋か三越。人達にとっては 「特別な買い物をする」 高級デパート。

■ジンバラン シーフード

この日の昼食は，地元ガイドのすすめによりシーフードを食べることにした。場所は，デンバサール国際空港近くのジンバラン地区。元々は漁村であったようであるが，新鮮なシーフードの恵まれた地の利を生かし，ビーチ沿いに魚を焼く屋台が登場し，今では観光スポットの一つになっているようである。

ビーチ沿いにずらりとシーフード屋台が並んでいる。お店はどこもほとんど同じシステム。入り口に並べられた発泡スチロールの箱に入れられたシーフードを自分で選び，調理方法を指定すれば，料理をしてくれる。

シーフード店街の入り口

発泡スチロールの箱に入れられたシーフード見て食べる魚と料理方法を注文する。

レストラン

私はビール，子供達はコカ・コーラを飲みながらシーフードの美味しさに舌鼓を打つ。

ココナッツの殻の炭火でじっくりと焼き上げ魚は，外側はぱりぱり，中はふっくらとジューシーでとても美味しい。

レストランの外のビーチ。沖に見えるのがデンパサール国際空港。

■あとがき

神々の国バリに家族で旅行してからもうすぐ 7 年になる。わが家にとっては最初の記念すべき海外旅行であったが，そのときの記憶は時間の経過と共に薄れていく。少しでも思い出せるときにと考えてこの旅行記をまとめた。

掲載した写真の一部は，わが家で最初に購入したデジカメ(富士フイルム社製)で撮影したが，多くの写真は使い捨てフィルムカメラで撮影している。プリントあるいはネガをデジタルデータに変換してワードに貼りつけた。

フィルムカメラで撮影した写真は，撮影日時が記録されないので，旅行記を書く際に不便であった。

2009 年 5 月 27 日記